

献上柿を箱詰め

茨城県石岡市
振興協議会
甘くて立派



1個ずつ丁寧に箱詰めされる皇室献上柿（15日、茨城県石岡市で）

一雄会長や久保田健一郎市長、生産者が宮内庁と東宮御所を訪れ、天皇、皇后両陛下と皇太子さまに献上する。

八郷地区は甘柿の北限に当たるが、温暖な気候と栽培に適した土壌から、良質柿産地で知られる。市全体では96戸が約100畝で栽培する。

皇室への献上は1955年に園部地区の生産者が納入したのが始まり。以降、3つの生産・出荷組織の持ち回りで続く。今年の担当はJAやさと柿部会。3人の部会員が「富有」を提供した。塚谷会長、久保田市長、生産者らが基準に合格した72個を選び、1箱に24

協同組合論で現地研修

茨城県実行委と茨城大学連携



生舎を見学する茨城大学の学生たち

「常陸牛」づくりを理解

【よばのき】2012国際協同組合年茨城県実行委員会と、茨城大学の寄付講座「協同組合論（全15回）」の第8回講義（和牛肥育の現地研修）が14日、鉾田市の肉用牛振興研修農場で開かれた。協同組合論は「社会・経済に対する協同組合の貢献についての認知度向上」の一環で、10月に開講。現地研修も織り込まれ、学生の資質・能力育成に資するとして関心が高まる。学生たちは「常陸牛」ブランドづくりへの理解を深めた。

今回のテーマは「県銘
柄牛「常陸牛」の生産現
場と試食」。

第7回講義で学習した
常陸牛ブランドづくりの
現状を踏まえてのフィー
ルドワークで、同大の2
年生を中心に3、4年生
を含む40人が参加した。
講師は7、8回とも同大
行委員会幹事で、県畜産
農業協同組合連合会の中

イチゴの
規格厳守を

個（8^斗）を詰めた。

塚谷会長は「今年は降
ひょう被害で収量は少な
いが、夏場の高温多照と

生産者の努力で、甘くておいしい立派な柿ができた。特に糖度は18と19ある」と話した。

規格厳守を

都賀部会

【栃木・しもつけ】JAしもつけ都賀母（いちご）部会はこのほど、栃木市で2013年産イチゴの統一目ぞろい会を開いた。部会員、市場関係者、JA職員ら65人が参加した。

現物目ぞろいでは、市



イチコの規格を確認する参加者

検査員8人を委嘱した。部会員、市場関係者、JA職員ら65人が参加した。

パン作り講習
茨城・北つくば
結城地区女性部
【茨城・北つくば】J A
北つくば結城地区女性部
は15日、結城市健康増進
センターで結城市食生活
改善推進員連絡協議会の
推進員34人を対象に、米
粉を使ったパン作り講習
会を開いた。

江連部長(左から)米粉パン生地の
員(16日、茨城県結城市で)

同協議会からの依頼で講師を務めた同女性部の江連秀子部長は、米粉の特徴や利点を説明した。米粉を使いピザとクリームシチュー、揚げパンの3品を作って試食した。米粉を使うと揚げパンはもちもちとした食感になる上、油の吸収率が低いのでヘルシーで軽い仕上がりとなった。ク

ームシチューは、米粉をホワイトソースに使ったことで、だまになりにくく口当たりが滑らかでさっぱりとした食感に出来上がった。

江連部長は「食生活改善推進員の皆さんは、消費者のリーダー的存在でもある。地域の中にJ A が入り米粉の普及や農産物の

物の中
で、
つな
た。
同
古く
「すい
農産
アレ
開発
にも

ニラ3部会初の講演会

かみづがA

「栃木・かみつが」JA かみつがの鹿沼にら部、西方にら部会、日光青果協議会にら専門部会の生産者がこのほど、鹿沼市のJA南部営農経済センターで、ニラの植物生理と、それを活用した栽培管理などの講演を聞いた。3部会合同の講演会は初めてで、新しい栽培技術や考え方を学び、次作以降の増収を目指す。講演会は県が展開する「栃木県にらNo.1産地奪回運動」の一環として、JAにら連絡協議会が開いた。3部会の生産者約80人が参加した。

講師の池田英男さん（大阪府立大学、千葉大学客員教授）は「農業は天候次第という考えではなく、可能な限り環境制御をして、収益性を高める必要がある」として、植物工場や、植物育成のメカニズム、水耕・砂耕といった土から離れた栽培方法なども紹介。取れたものを売るのはなく、売れるものを作るように意識転換を求めた。

鹿沼にら部の熊谷良二部長は「より良い品を適時・適量で出荷しないと市場から評価されない時代になった。産地として

冬ニラ

品質統一を
栃木・JAしおのや
目ぞろえ

【栃木・しおのや】JA しおのや管内で冬ニラの出荷が順調に進んでいる。JA氏家地区に支部会はこのほど、JA本会で冬ニラ目ぞろえ会を開いた。部会員や市場担当者、塩谷南那須農業振興事務所やJAなどから近人が出席し、出荷規格の確認と、品質の統一を申し合わせた。

坂本昭夫部長が「口質を統一し、安全・安

な生産に努めよう」とあ
いさつした。

目でろえでは、サンブ
ルを手に取り、葉長や葉
色、病虫害などを丹念に
チェック。とろけの発生

欠要認出を



る。
学生たちは、肥料の与え方や、銘柄普及の取組みを聴きながら牛舎を順次、見て回った。

供した県産野菜のサラ
も堪能した。「より深
学びたい」と話す学生
おり、今後かなりの受
講生が見込まれる。

野菜産地を視察
栃木・JAおやま管内
【栃木・おやま】JAお
やま管内で12日、下都賀
農業
地方
催の
産振
ツア

川徹統括部長が務めた。同農場の白土和範場が概要を説明した。

同農場は1992年肥育もと牛を導入し、年に肥育牛の出荷を始めた。個体管理技術の発、モデル的肥育経営実証展示、配合飼料の究開発などを進めている。現在、和牛肥育牛700頭を常時飼養

関心が湧いた（理学的な梶山健太さん）など「農業に対する関心」共通した受講動機。学たちは「獣医は常時いか」牛がけがをしたの対応は」など熱心に問した。

見学後、常陸牛肩口ス2種を試食し、風味の違いを比較した。生活協同組合連合会が



園場に入り、野菜に触れながら見学す
のた。川加びぜいで、まの山